

ふくろい遠州の花火 大会開催中における自然災害等発生時の対応について

東海地域に影響を及ぼす地震が発生した場合の対応

震 度	開催判断	実行委員会	司令本部	備 考
南海トラフ地震に関連する情報(臨時)				
異常な現象が観測され調査を開始した場合	打上継続	案内所対応	情報収集	
地震発生の可能性が平常時と比べ相対的に高まった場合	中 止	実行委員長対応	司令本部決定	
3	中 断	アナウンス対応	司令本部決定	
4	中 断	アナウンス対応	司令本部決定	市対策本部と連携
5弱	中 止	実行委員長対応	警察・消防と協議	〃
5強以上	中 止	実行委員長対応	警察・消防と協議	〃
津波注意報0.5m	中 断	案内所対応	司令本部決定	
津波警報1～2m	中 断	案内所対応	警察・消防と協議	
大津波警報3～10m以上	中 止	実行委員長対応	避難誘導について警察・消防・市と連携し対応	

【発生時における手順】

- 1 花火の打ち上げを直ちに中断し、上記の対応事項に応じ適切に判断する。
- 2 地震のゆれがおさまるまで、それぞれが身の回りの安全確認を行い、冷静にその場で待機するように放送する。大会役員・スタッフ・警備員は観客の安全を確保するように努める。
- 3 地震のゆれがおさまり次第、河川敷の皆様には津波の危険性を伝え、堤防中段の公園より高い所まで上がるよう放送を繰り返す。『花火の有料席となっているサッカーグラウンドは海拔12.4mです。繰り返す！』
- 4 司令本部にて地震の情報収集を行い、被害状況により花火大会を中止するかどうか、警察・消防・市と協議し、実行委員会(委員長)が決定し、場内放送する。
- 5 大会の中止が決定した場合、司令本部は通常時終了と同じ誘導を行うが、河川敷の使用は中止する。観客の帰路の安全には、実行委員会の委員・警備員が一丸となって、安全誘導に努める。
- 6 JR袋井駅・愛野駅との連絡を密に取り、観客のJRを使用する際の帰路情報を随時放送する。

※雷注意報が発表された場合（情報通信機器を設置しインターネットにて常に情報を確認する）

雷が近くに発生した場合の対応

【発生時における手順】

雷鳴又は落雷の恐れ等の気象状況に至ったとき。

- (1) 開催前に発生した場合。
 - ・ 詳細な天気予報等の情報をもとに、開催の決定要素の1つとして重要視し、決定する。
- (2) 開催中に発生した場合。

開催中に発生した場合には、大会の中断及び中止を決定しなければならないが、当初は大会を中断し、観客の安全を守る放送を行う。

 - ・ その場で身をかがめる、傘は閉じるように放送する。
 - ・ 高い木のそばに避難していると、幹や枝から落雷による高電流が人に飛び移る恐れがあるため、高い木から離れるように指示をする。やむを得ない場合には身をかがめ幹から4m、枝から2m離れるように指示をする。
 - ・ 愛野公園Bゾーン(タンク山)からの避難誘導は担当スタッフが速やかに行う。

花火大会の中断および開催中の中止について

以下の場合には、花火大会を中断しなければならない。又、中断後、一定の時間が経過しても事態が好転しない場合には、大会を中止する。

- (1) 自然条件が悪化した場合
 - ① 相当量の降雨(30mm)が発生した場合。
 - ② 風速10m以上の強風が一定時間継続した場合。
 - ③ 上流の大雨により河川の水位が上昇した場合(山名水位計5m)。会場付近で大きな火災が発生し
- (2) 事件・事故等が発生した場合

事件・事故等が発生し、公共の安全と災害の防止の確保ができなくなると判断された場合。

その他

- (1) 不測の事態が発生した場合には、警察・消防・市と連携し、事態に対応した方法を模索し終息に努める。
- (2) 本部は、災害等に関する情報を常に共有できるよう各案内所へ情報発信する。本部担当者を定める。
- (3) 各案内所は災害等で入手した情報は必ず本部に連絡すること。各案内所担当者を定める。